



◎本會調査部の活動

第五調査科

二月一日午後四時より麴町區丸の内永樂俱樂部に第一回の會合を催した、集る者は委員長の市瀬恭次郎君を始め次田大三郎、比田孝一、池田圓男、島重治、物部長穂の諸氏である、三浦幹事から二號國道中山陽道の改良計畫の調査基準に就いて説明したが、第一に問題と爲つたのは路線の選擇であつた、成るべく現在國道路線に従つて改良計畫を樹立するのが適當であるが、夫れに捉はれて計畫するのも面白くないので路線の適否調査に及むだが、明石姫路間に於ける省線鐵道と國道との交叉を避くべき路線を選定し、三石峠の坂路を捨て、赤穂町に出で片上村に

出する路線と現在線との比較調査を爲すこと、岡山神邊間も現在線捨て、倉敷町笠岡町福山市尾ノ道市經由に變更することの可否に就き論議されたが、結局幹事に於て現在道路の幅員勾配を調査し再議に附すること、し神戸姫路岡山尾道廣島及下關各市の市内路線に就ては實地調査の上決定すること、し、幅員に就ては大體東海道の幅員を基準として神戸明石間は七間、明石市内は九間、明石姫路間六間、姫路市内九間、姫路岡山間四間、岡山市内九間、岡山神邊間（實地調査の上決定）神邊尾ノ道間六間、尾ノ道市内八間、尾道ノ三原間六間、三原廣島間四間、廣島市内十間、廣島岩國間六間、岩國徳山間四間、徳山長府間五間、長府下關間六間とし下關市内は實地審査の上決定すること、した、第二の問題である主要府縣道の採擇方針に關しては内務省土木局で決定した方針に對し批評を加へたゞけであつたが、同局で道路網を決定した上其の草案に付意見を提出することに決定し後八時半散會した。

第三調査科

二月九日午後四時より麴町區丸の内日本俱

樂部に第一回の會合を催した、集る者は委員長の渡邊鐵藏博士、内田副會長、武井飯沼田中の三幹事出席、道路改良助成費に關する調査に就いては國及地方費の支出する道路費用と之に關する財源を調査した上意見を決定すること、し、道路工事費特別賦課の成績は地方に照會して調査し、自動車税の調査は現行税制と税率最近の税額を調査し、調査方法は主査と幹事共同して決定することとし後七時半散會した。

第三調査科 二月十八日午後四時半より日石ビルディングに於て開會、當日は大木伯露去の爲に出席委員少く松木

中野の兩委員と武井田中兩幹事出席し這般小委員に附託された調査項目の報告があつた。其の要旨は左の如きものである。

道路ノ經濟上ノ效果ニ關スル調査項目

第一 道路運送費輕減ニ關スル調査

- 一 道路ノ改良ニ因ル車輪ノ磨擦抵抗減少方ノ研究
- 二 運送距離及貨物ノ種類ニ依ル運搬具ヲ區別利用スル

方法ノ研究

- 三 道路ノ幅員ト運搬具ノ通行回數ニ基ク經濟上ノ比較研究

- 四 都市ニ於ケル運搬具ノ空車通行減少ニ因ル路面利用能率増進及之ニ伴フ運送費ノ輕減

- 五 荷馬車輓曳式ヲ乘取式ニ改正スルコトニ由ル路面利用能率ノ増進

- 六 運搬具積載量増加ニ伴フ運送費ノ輕減

- 七 運搬業ノ組織的經營ヲ獎勵シ必要アル場合政府ヨリ補助金支出方ノ調査

第二 道路交通用具改善ニ關スル調査

- 一 荷車、荷馬車、貨物自動車ノ規畫統一ニ關スル研究
- 二 搬夫、馱者、荷馬車及馬匹ノ統一取締ト其助長發達ニ關スル研究
- 三 乘取式荷馬車利用獎勵方ノ研究

- 四 輓用馬匹改良ト其利用方面ニ對スル保護監督方ノ研究

第三 道路ト鐵道、軌道ノ建設費並ニ營業費ノ比較研究
第四 道路運送ノ發達カ產業ノ分布國民ノ生活狀態ニ及ホ
ス影響ノ研究

說 明

第一 道路運送費輕減ニ關スル調査

一 道路ノ改良ニ因ル車輪ノ磨擦抵抗減少方ノ研究

路面ノ硬軟及凹凸ノ多少ガ車輪ニ及ボス磨擦抵抗ハ直接其動力ニ影響スルコト大ナルノミナラズ延ヒテ運送ノ數量及時間ニ大ナル差異ヲ生ズルモノナルヲ以テ現時各都市ニ於テ試驗中ニ屬スル各種ノ鋪裝路面ニ對シ各種ノ動力及運搬具ニ依ル精確ナル試驗ヲ實際ニ施行スルト同時ニ之ニ關スル各官公署ノ資料ヲ蒐集シ研究ヲ進ムルコトトシタシ

二 運送距離及貨物ノ種類ニ依リ運搬具ヲ區別利用スル方法

運送距離ノ遠近及貨物ノ品種如何ニ依リ運搬具ヲ區別利用セバ經濟上ノ利得尠ナカラザルガ如シ即チ我邦ニ

於ケル普通路面、倉庫、各店舗及水陸連絡設備等ノ現況ニ徴シ短區間ニ於ケル貨物自動車ノ使用ハ兎角其機能ヲ完カラシメ能ハサルガ如シ依ツテ各方面相當施設ノ完備スル迄貨物自動車ハ比較の長距離ニシテ其快速ヲ利用シ停車時間ヲ短縮シ得ル方面ニ差向ケ荷馬車、牛車、手車ノ如キハ主トシテ短區間ノ往復及道路建物等ノ設備不完全ナル方面ニ使用スルコトニ區別セバ經濟上利得多キガ如シ其他現時往々鮮魚、鮮肉、野菜ノ如ク急送ヲ要スル貨物ニ對シ緩速度ノ運搬具ヲ用ヒ急送ヲ要セザル短區間ノ荒荷ニ對シ自動車ヲ使用セルガ如キニ對シテモ適當ニ之ヲ整理シ得ベキ方法ヲ考究シタシ

三 道路ノ幅員ト運搬具ノ通行回數ニ基ク經濟上ノ比較研究

都市ニ於ケル道路ハ漸次鋪裝方法ノ改善ニ依リ堅固平滑ナルニ至ルモ其幅員ノ擴張ニ至リテハ兩側諸建造物ノ移轉及地上權ノ賠償等多額ノ經費ヲ要スル爲メ天災

又ハ不時ノ事變發生セザル限リハ之ヲ斷行シ能ハザル
向多キヲ見ル殊ニ都市ノ幹線ニ接續セル近郊各方面ノ
主要道路ノ如キハ今以ツテ舊幕時代ノ狀態ヲ其儘ニ襲
踏セル向少ナシトセズ從ツテ日々車輛人馬ノ交通混雜
ヲ極メ事故ヲ頻發シ易キノミナラズ路面狹隘ノ爲メニ
自動車ノ如キモ長區間荷馬車ノ緩速度ニ追從運轉スル
ノ已ムナキニ至ル爲メ日々一般ノ運送能力ヲ減殺スル
コト尠ナシトセズ依ツテ此際運搬具通行ノ回数ト道路
幅員ノ關係トヲ經濟的ニ比較研究シ日々其ノ損失最モ
著キ區間ニ在リテハ急遽擴張ノ方法ヲ講ズルコトトシ
タシ

四 都市ニ於ケル運搬具ノ空車通行減少ニ因ル路面利用
能率増進及之ニ伴フ運送費ノ輕減

目下都市ニ使用セル荷馬車ハ衛生上ノ關係ヨリシテ大
體其厩舎ヲ市内ニ設置スルコトヲ禁止スル方針ナリ之
ガ爲メ市内各所ニ使役スベキ荷馬車ハ日々空車ヲ牽曳
シテ近郊數里ノ外ヨリ往復スル爲メ長キハ爲メニ數時

間ヲ空費スルノ已ムヲ得ザルニ至リ延ヒテ莫大ナル運
送費ノ増加ヲ來タセルハ現時瞭ナル事實ナルヲ以テ之
ガ改良方法ヲ考究セバ道路經濟上裨益スル所多大ナル
モノアルヲ信ズ

五 荷馬車輓曳式ヲ乘馱式ニ改正スルコトニ由ル路面利
用能率ノ増進

從來荷馬車ハ馬夫ニ於テ把繩ヲ取り馬匹ヲ曳行スル習
慣ナルガ右ハ車輛運轉ノ速度ヲ鈍ラシムルノミナラズ
馬夫ノ疲勞ヲ來シテ事故ヲ起シ易ク動物愛護ノ念ヲ薄
カラシムル等ノ弊害尠ナシトセズ因ツテ之ヲ普通馱米
各國ニ行ハル、乘馱式ノモノニ改メ之ニ依ツテ生ズル
路面利用能率ヲモ比較研究スルコトトシタシ

六 運搬具積載量ニ伴フ運送費ノ輕減

車輛ノ自重輕減、車輛「ベヤリンク」ノ改良等ニ依リ
無駄ノ動力ヲ節約シ得ル方法ヲ講ズルト共ニ其余力ヲ
以テ貨物積載量ヲ増加シ運送費ヲ輕減スル方法ヲ研究
シタシ

七 運搬業ノ組織的經營ヲ獎勵シ必要アル場合政府ヨリ補助金支出方ノ研究

内地斯業ニ在リテハ各方面共數多ノ小業者分立シ時ニ營業上無謀ナル競爭又ハ壓迫ヲ受ケ業務ノ安定ヲ缺グコト多キノミナラズ個々僅少ノ資本ハ適當ナル施設改善ヲ實行シ能ハズ却ツテ時代ニ逆行スルガ如キ現況ニ在ルハ甚ダ遺憾ナル次第ナリトス就テハ今後資本合同組合組織等ノ方法ヲ獎勵シテ之ヲ善導シ場合ニヨリテハ政府ヨリ適當ノ補助金ヲ支出シテ斯業改善ノ基礎ヲ固ムルコトトシタシ要之社會ノ實生活ニ密接ノ關係ヲ有スル運搬業者ノ共存共營ハ延ヒテ國民經濟上至大ノ關係アルヲ以テ本件ノ研究ハ一日モ之ヲ等閑ニ附シ能ハザル次第ナリトス

第二 道路交通用具改善ニ關スル調査

一 荷車、荷馬車、貨物自動車ノ規畫統一ニ關スル調査
目下陸上ニ於ケル運送用諸車輛ハ其規畫不統一ニシテ天災時變其他一朝有事ノ際其流用困難ナル事情アルノ

ミナラズ各種各様ノ規畫ハ修理及部分品取換ノ際意外ノ冗費ヲ要スルヲ以テ大體之ヲ兩三種ニ區別シ規畫ヲ統一スルコトトシタシ

二 搬夫、馭者、荷馬車及馬匹ノ統一的取締ト其助長發達ニ關スル研究

從來搬夫、馭者ノ指導訓練ニ關スル何等ノ施設ナキタメ斯業ハ一種特別ノ賤業ナルガ如キ觀念ヲ一般ニ讓致セルノミナラズ車輛馬匹ノ如キニ對シテモ從來何等統一的ノ施設ヲ見ザリシヲ以テ設備纖弱ナル小業者各方面ニ分立シ事業ノ安定脅カサレ運送費ノ不廉ヲ來タス等其弊鈔ナカラザルヲ以テ此際右等ニ關スル救濟施設ヲ研究スルコトトシタシ

三 乘馭式荷馬車利用獎勵方ノ研究

最近農林、鐵道兩省競馬協會及ビ運送會社相協力シテ乘馭式荷馬車ノ使用方ニ關シ專心研究ヲ進メラル、ハ之ヲ多トスベキモ荷馬車業者自體ハ兎角舊來ノ習慣ニ捉ハレテ運送能力ノ減退、馬匹ノ疲勞等ヲ主張シ改善

進歩ノ意氣ニ乏シキガ如シ就テハ之レガ使用獎勵方ニ關シ當適ナル方法ヲ講究シ乘馭式車輛採用ノ必要ナル所以ヲ全國的ニ周知セシムルコトトシタシ

四 鞍用馬匹改良ト其利用方面ニ對スル保護監着方ノ研究

統計ニ依レバ我邦ニ於ケル鞍馬ノ總數ハ三十七萬頭ニシテ國民一般ガ此運搬作業ニ對シ支出ヲ余義ナクセシメラルル年額ハ實ニ七億萬圓ヲ超過セリ政府當局ハ累年所定計畫ノ許ニ馬種ノ改良ニ關シ腐心セラルルハ之ヲ多トスベキモ其利用方面ニ對スル保護監督ニ對シテハ尙研究考査ノ余地多キヲ認ムルヲ以テ動物愛護ノ獎勵、車輛積載制限ノ勵行、馬糧及厩舎ノ監督等ニ依リ優良鞍馬ノ天壽ヲ全フセシメ依ツテ以國民經濟上ノ利益ヲ増進スルコトトシタシ

第三 道路ト鐵道、軌道ノ建設費並ニ營業費ノ比較研究

道路建設費ハ鐵道、軌道建設費ニ比シ低廉ナルヲ以テ道路運送費亦鐵道軌道運送費ニ比シ低廉ナルベキモ實

際ニ於テハ自動車ニ對スル課税ノ巨額ナルコト、燃料タル「ガソリン」ノ高價ナルコト等ニ由リ必ズシモ然ラズ延イテハ自動車運送營業ノ發達ヲ困難ナラシムルモノアリ、又遠距離行大量貨物ノ輸送ハ殆ンド鐵道ノミニ據レルモ近距離行小量貨物ノ輸送ニ對シテハ鐵道軌道道路運送相併立シ時ニ競争的態度ニ出ヅルモノアル依テ國民經濟上出來得ル丈經濟的運送方法ヲ講ズル爲メ此等交通機關ノ建設費並ニ營業費ノ比較研究ヲ爲ス必要アリ

第四 道路運送ノ發達ガ産業ノ分布、國民ノ生活狀態ニ及ボス影響ノ研究

自動車ハ軌條ノ敷設費其他大ナル經費ヲ要セズ且ツ輸送力小ナリト雖苟クモ一車分丈アラバ運轉スルガ故ニ道路完備シ自動車營業ガ組織的ニ經營セラレ運賃亦低廉ナルヲ得バ全國到ル處商工業ノ中心地又ハ市場ト相連鎖スルニ至リ産業ハ遠地的ニ分布セラレ又住民ノ鐵道停車場附近ニ密集スルコトヲ防止シ人口ノ都市集中

ヲ避クルヲ得テ農村振興ニ寄與スル所少カラズ其他道路ノ改良ハ直接ニ國民ノ生活費ニ大ナル輕減ヲ來スヲ以テ之等經濟上ノ效果ヲ調査セントス。

◎堀田副會長の葬儀

卒去された本會副會長堀田貢氏の葬儀は二月七日芝區高輪泉岳寺に於て執行された、此日午前十時本會やら其他の名士より贈られた花輪生花の裡に安置された棺前に於て鶴見總持寺の名僧讀經裡に棺前式を執行し本會は左の弔詞を呈した。

弔 詞

本會ハ副會長正四位勳三等堀田貢君ノ卒去ヲ悼ミ謹テ哀悼ノ意ヲ表ス

大正十五年二月七日

社團法人道路改良會

遺子光君タマ子未亡人其他親族一同の燒香終了し、葬儀委員長河原田稼吉氏の指揮の下に午前十一時出棺、同三

十分告別式場たる泉岳寺に向つた、同寺に於ては儀式係長松本學氏指揮の下に萬端の設備整へられ、着棺と同時に總持寺管長新井石禪師導師の下に莊嚴裡に讀經を開始し遺族最後の燒香を終つて一般告別式に移つた、本堂前面左右には政友本黨總裁床次竹二郎氏、水野鍊太郎氏を始め朝野の名士多數參列して告別式參列者に挨拶し、參列者は、大森皇后宮大夫を始め貴衆兩院議員朝野の名士多數を占め二時告別式を終へ二時三十分泉岳寺發鶴見總持寺に於て埋葬式を執行し此くして氏は冥土の旅に就かれたのである。

◎第五回萬國道路會議開催と派遣官

既報の如く第五回萬國道路會議は伊太利ミランに於て本年九月六日から十三日迄開催されることに確定したので、之に要する經費豫算は十五年度追加豫算として帝國議會に提出するものである、從來は各省豫算に外國旅費が計上されてあつて、此豫算中から常に外國に滞在して居るものがあつた爲出席するのも容易であつたが、現内閣の財政緊

縮方針の下に外國旅費が削除されたので出席人員も自然に制限を受ける譯であるが、今回は事務官技術官各一名を派遣するさうであつて、目下次田内務省土木局長の手許で人選中である、此會議に列席するのは普通の海外視察旅行と違つて相當の見識を具備する者でなければならぬ、殊に今回の議題は所報の通り事務技術に亘つて重要なものが多數を占めて居る、各國の所見を拜聴したゞけで歸國するやうなことなら尠ながらぬ經費を費して派遣する必要がない、常に道路技術に没頭して研鑽を積むで居る技術家を派遣して出席を有意義ならしめたい。

◎ 郡役所廢止と道路法

現政府が郡役所を廢止するので、諸法令中郡役所に關する規定は全部改正することに爲つたことは既報したが、道路法にも第十一條第二號の府縣廳所在地より府縣内郡役所々在地に達する路線を府縣道として認定する規定があるのと、現に此規定に依つて認定され道路が存在する爲に之を

如何に措置すべきかは當局で攻究中であつたが、此規定に依る既認定府縣道は府縣廳所在地より府縣内樞要の地に達する路線として認定の變更をすれば足るもの大部分を占め、之に該當しないものも他の規定に依つて變更認定すれば府縣道として存在すべきもの多數であるから道路法を改正することは見合すさうである。郡役所廢止に伴ふ町村道の監督に就いては地方長官をして適宜措置せしめ事務簡捷の實を擧ぐることに命令を改正する由。

◎ 道路試験に關する聯合協議會

道路技術の進歩に伴ひ各所に於て試験を執行して居るが、之を通觀するときは同一の試験を各所に於て互に獨立して執行しつゝ、在つて不經濟なるのみならず、試験能率を擧ぐることも亦困難であるとのことで内務省土木試験所が發起人と爲り目下道路材料の試験を執行して居る復興局、帝國大學、鐵道省及東京市の關係者が集合して之が對策に附協議した、其の協議の内容は決定して居ないが、各所に

於て執行する試験の種類は互に通報して重複せしめざるこ
と、試験の成績は速に交換して研究資料に供すること、試
験に必要な機械も互に流用して經濟的に試験の目的を達
すること、等で之が共通方法等に關しては目下起草中であ
る。

◎路工會と橋人會

道路技術者が集つて定時に懇親會を開かうと云ふので路
工會が成り立つた、我輩が居ない留守中に始まつた様子で
其の目的ははつきり聞かないが、多分お互に連絡を取つて
工事の進捗及道路技術の進歩を圖るにあると思ふ。丁度二
月二十六日の夕方から四谷の三河屋で其の何回目か、開か
れた。内務省の島課長、牧野試験所長を始めとして復興局
の平山、茂庭外各所長、東京府及東京市の牧局長と云つた
堂々たる顔觸れについで、是等各局課の錚々たる若手技
術官が約四十名ばかり集つた。東京の復興を背負つて立た
うと云ふ連中だから元氣もの揃ひで、濛々たる煙の内に大

分氣焔も揚がつたが、人数が余り多過ぎるのでこんな會合
に有り勝ちの割據主義になつて、結局は知り合ひ同志が同
じ鍋をついて談論するだけで、大官は大官、下役は下役
同志と云つた様な頗る不徹底の座席になつてしまつた。幹
事の智慧で各自五分間演説をやることゝしたが余り卓説も
なく一局員の外遊問題で御茶を濁す人々もあつたやうだ、
之につけて思ひ出すのは歐米人の運動熱である、其の運動
は日本人とちがつて老幼の別がない、男女の差がない、總
ての人は各自思ひ々のスポーツに嬉々として他愛もなく
享樂して居る、上手下手といふでない、皆無我無心に樂む
之が所謂彼等の元氣あり精力ある所以で、青い顔しながら
袖手傍觀の日本人とは大分の隔たりがある。運動と懇親會
とを一所にするのはひどいと云ふ人もあろうが、要するに
こんな會合では老壯の別なく胸襟を開いて、愉快に一席の
宴の目的を達するやうにしたらどうだらう、國祖ワシント
ンが米國將來のために残した國策モンロト主義をこんな席
で我が大官連が遵奉する必要もなからう。帝都の復興は難

事中の難事である。二十世紀の文明都市として是を如何に改造すべきか、其の解決の鍵は、一に技術者の手に握られて居る。ブルボン王朝の全盛期たる路易十四世の時に、王は其の權勢の凡てを傾盡して巴里の都の經營にかゝつた、彼のシャンゼリゼーの大路、ブールヴァールの廣通、ルーヴルの美術館、パレー・ロワイヤールの建築も皆彼の手を繕りた、其の後大ナポレオンの時にシャンゼリゼーの大路を擴張し、あの莊嚴な凱旋門を建て彼の没後千八百三十六年に工を竣へた、チュレリーの宮殿とシャンゼリゼーの大路を連絡するコンコード廣場ほどの雄大な廣場が世界の何處に見出されやう、巴里に遊ぶもの一度此處に足を止めて南にはセーヌの清流を隔て、雲に聳ゆるエツフェル塔とナポレオンの墳塋を望み、東はチュレリーの宮殿、西はシャンゼリゼー大路のつくるところ遙かに凱旋門を望むとき、文明の精華を表現する巴里は佛蘭西文明の結晶であると三嘆せざるを得ない。美術の國と謳歌せられる我が帝都の復興は今如何なる状態にありや大和民族の情調を凌る世界的

の施設を豫期することが出来やうか、折角生れた路工會の諸氏切に健全ならんことを望む。(エム生)

◇

◇

近頃は色々の會合が催されるやうになつた。之も一種の流行で大に有益のことと思ふが花火線香見たやうにならなければよいが。此の三月五日の夕方吳服橋の末廣で橋人會が其の三回目の會合を催した。初めきやう人會と云ふので狂人會と間違へて氣狂ひの會合かと尋ねた人もあつた。然し會員は堂々たるもので内務省の物部、三浦、青木の連中から復興局の平山、田中、鐵道省の大河戸、黒田、沼田市役所の谷井、小池と云つたやうな顔觸れでやつと氣狂ひでないことが分つて大笑ひとなつた。此の晩は客分として先輩の樺島、川崎鐵網の那須と云ふ大家が見えて、那須氏は橋梁美と云ふ題で大分得意の辯説を振られた、市街橋の美觀は見る人が皆動いて居る、家屋建築の美は主に靜止の時に起る美觀であると云つたやうなことから約三十分間滔々と演説された。此の會の目的が演説などを聞く機會を造る

ために設けられたのでないから、鐵網の廣告は勿論、講演の時間も三十分と制限されて非常に窮屈さうに各題目だけ片付けられたのは多少氣の毒の感がした。此の講演の主旨には大部言ひ度ひことがあるが、橋梁の門外漢としてあれだけ熱心に研究された好意には、又他山の石として大に敬意を表する、講演中には大分東京市内の橋への悪評や地方の橋への罵言が出るだろうと、田中、谷井、三浦の連中は内心ビク／＼ものだつたが、時間の短か／＼つた／＼めか其等の問題には觸れないで、却て橋梁設計者は頭腦の明透を要し、煩鎖な計算に半年や一年を費すことも珍らしくないのに、其の報いらるゝところ甚だ尠いと同情の言葉を聞いたので、やつと胸撫で下ろした。近代橋梁の設計には應力の計算はきまりきつたもので問題にならない、如何に經濟的のものを造るか、市街橋の美觀を如何にするか。建築物や環境との調和を如何に取るかは橋梁に關與する人の最も苦心して研究しつゝある點である。復興事業で出來た東京市内の橋も美觀の點からは色々非難も出やう、然し永代、

吾妻等の時代と比べて、一つの進歩の跡を見ることが出来るやうに思ふ。當局の苦心も買つてやる可きだろう。話は日本橋に飛んで、國道一號線の起點に當る此の名橋も、震災のため其の高欄を大分痛められて見るからに慘憺たる姿になつて居る。之を改築する必要ありや將又震災の紀念として全部架設する必要時機迄、あの儘存置する方がよいかと云ふ問題で議論に火花を散らしたが、惜しいかな遂に結論に達せられないで九時半に散會した、折角橋人諸君の自重を祈る。(エム生)

